

1. 復興ビジョンにおける「復興」の考え方

【奪われたもの】

○震災による甚大な被害

- ・ 184 名の尊い命
- ・ 地震と津波によって植えつけられた心の傷
- ・ 流出 604 戸、全壊 29 戸、公共施設や道路等
など甚大な被害

○全てを奪った原発事故のつらさ

- ・ 「全町避難」という理不尽な現実
- ・ 汚染され、荒廃したままのふるさと
- ・ 目に見えない放射線への不安
- ・ 当たり前でありふれた平和な日常の
喪失

取り戻すべきもの、復興すべきものは何なのか？
ふるさとの再生も大事だが、それよりも大事なのは
「一人ひとりの命と暮らしを守る」こと

【復旧・復興すべきもの】

○一人ひとりの暮らしの再建

・ かつて浪江で送っていた平穏な日常を「今居る場所、あるいは新しい場所、または元の場所で」一日も早く取り戻すことが必要。

多様な想い：一人ひとり違う考え方、復興への想い

例えば、今後の暮らしの場については…

町外でも構わないので、早く集まって暮らしたい。

自分の好きな土地で生活を再建したい。

極力早く、自宅でもなくとも町に戻って生活したい。

それぞれの町民が安心して、自らの今後を選ぶことができる環境・制度・前提を作っていくことが必要。

【安心して選択するために必要な事項】～どこに住まおうと～

- ・ 区域見直しや帰町の判断で不平等が生じない賠償の確保
- ・ 安心して避難が継続できる制度の確保
- ・ 放射能に対する健康の確保
- ・ 雇用の確保（事業継続、就業支援）
- ・ 安心して暮らせる住まいの確保
- ・ 町民が再会できる機会の創出
- ・ 学習支援の充実 など

【町外での集住希望】

- ・ 町外でも、より多くの町民が安心して集まって暮らすことができる 住まい、コミュニティ、働く場、学校等生活環境の確保 など

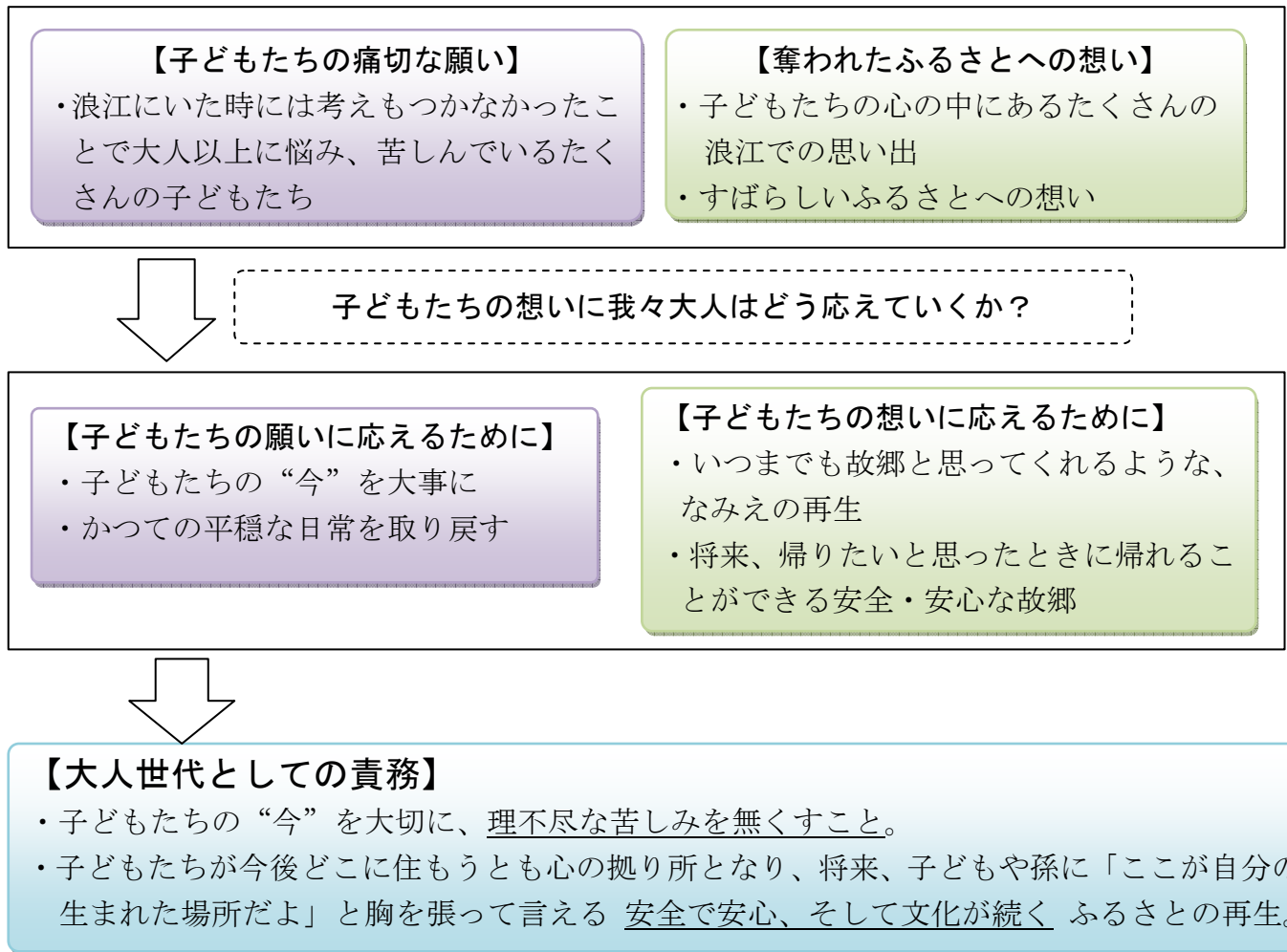
【県外での生活希望】

- ・ 長期的な支援の継続
- ・ 二重の住民登録など他地域で不便なく暮らせる制度の構築
- ・ 浪江との絆づくり など

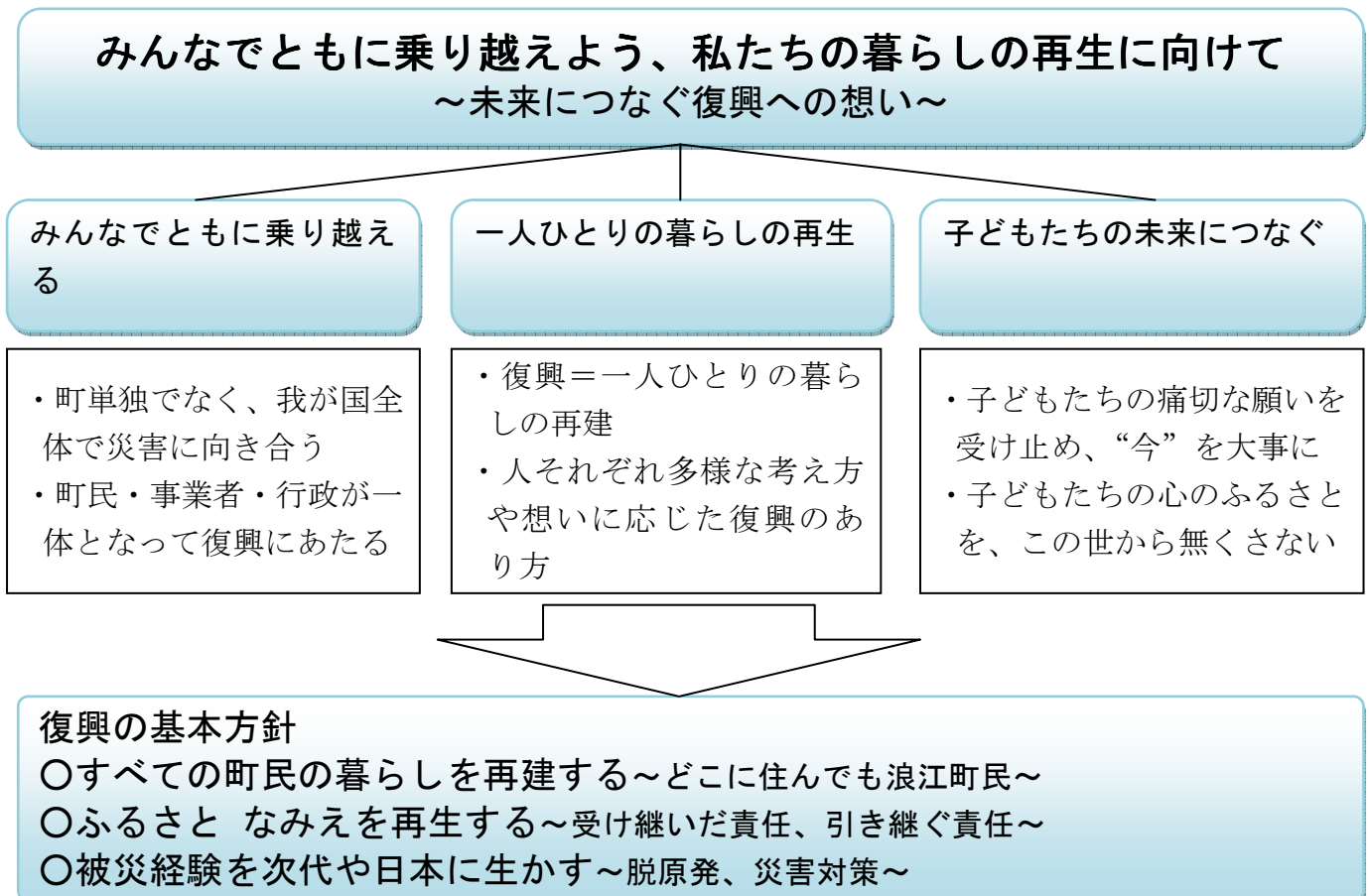
【早期帰町希望】

- ・ 徹底した除染
- ・ インフラ復旧、住宅補修
- ・ 低線量地区を中心としたまちづくり、住宅確保
- ・ 医療、福祉、教育等の、生活環境の再生、雇用の場の確保 など

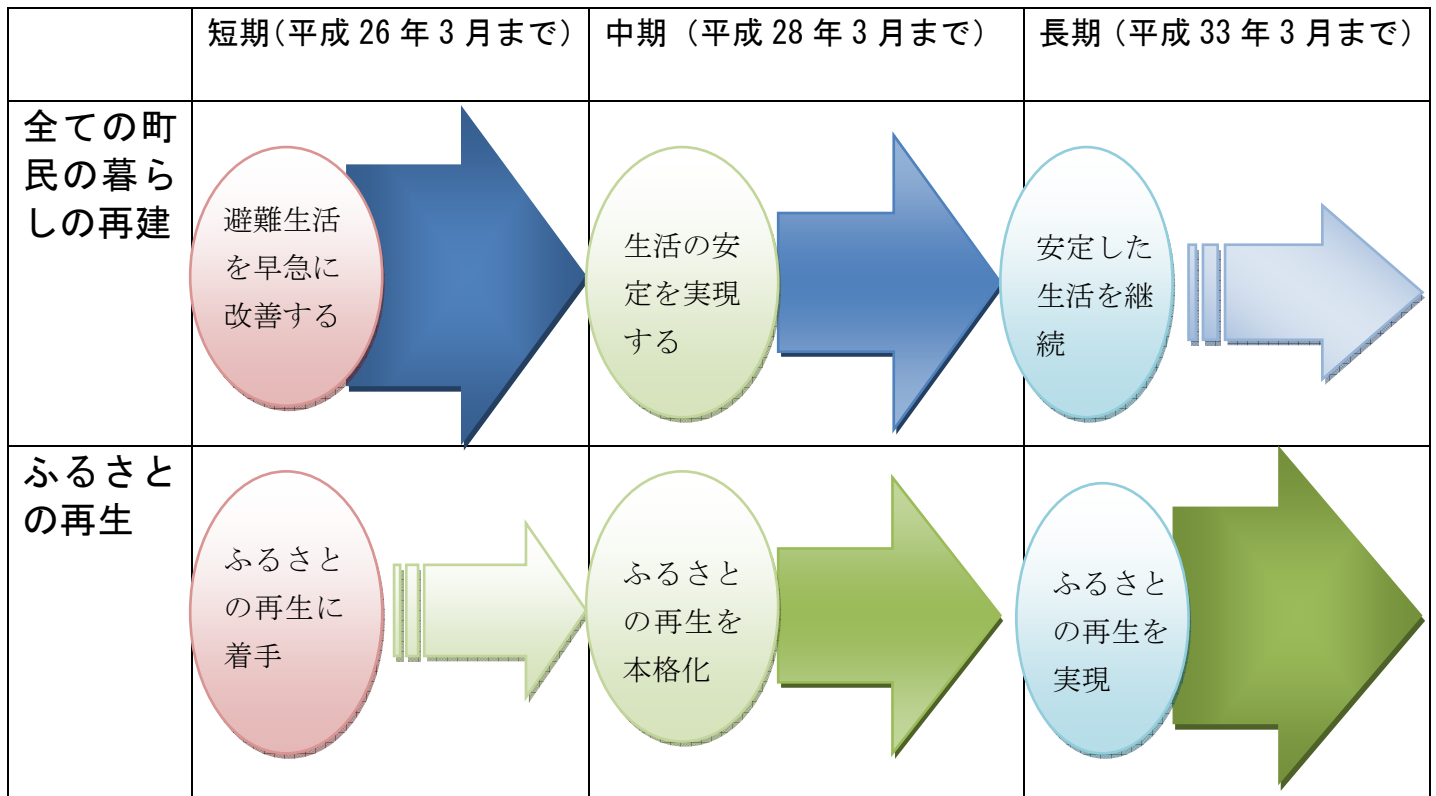
2. 子どもたちの想い～アンケートから見えるもの～



3. 復興の基本理念と基本方針



各時期における復興への取組み



【すべての町民の暮らしの再建に向けて】

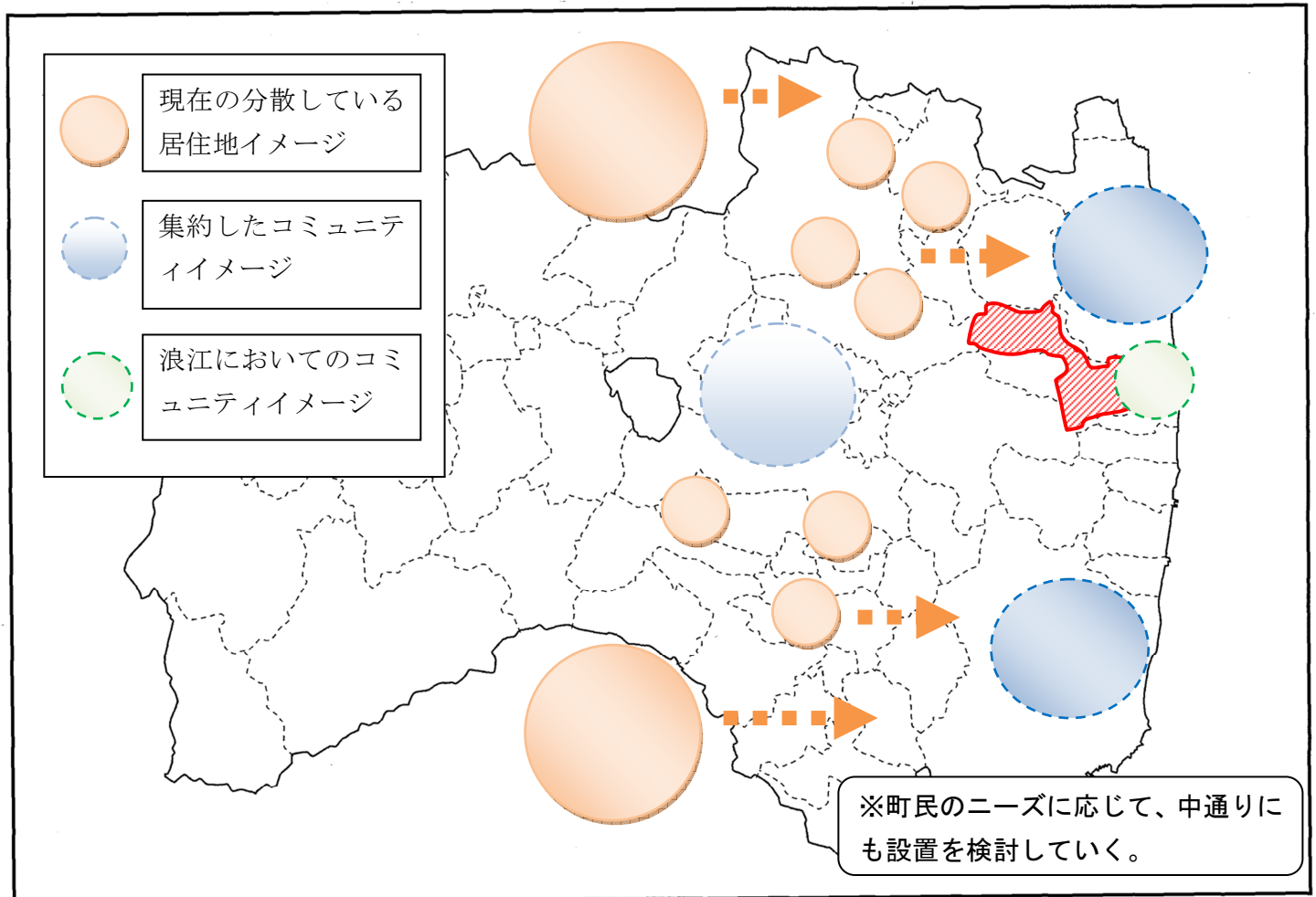
- ①短期においては、避難生活環境の改善、町外でも安心して暮らせる環境づくり、新たな居住の場の確保により、避難生活を早急に改善していきます。
- ②中期においては、町外において安心できる生活環境の構築、事業再開、就労の実現等により、全ての町民の生活の安定を目指していきます。
- ③全ての町民が、安定した生活の中で、浪江町民としてのアイデンティティを持ちながら、それぞれの人生を自由に歩んでいけるよう、様々な選択による不利益が生じないように取り組んでいきます。




【ふるさとの再生に向けて】

- ①短期においては、低線量地域の除染やインフラ復旧を先行し、ふるさと再生の足掛かりとしていくとともに、長期的な視点に立ってまちづくりの準備・検討を行っていきます。
- ②中期においては、本格除染、インフラ復旧の拡大により、生活可能なエリアを拡大させていくとともに、医療、福祉、教育、産業等の生活に必要な環境の整備の拡充を図っていきます。
- ③長期においては、安全・安心であることを大前提として、その上で若者が集まる魅力的な町となるような町づくりを推進していきます。

今後の復興イメージ

- ①分散している避難状況を改善するために、集約したコミュニティで誰もが安心して暮らせるようにしていきます。
- ②その上で、ふるさとなみえの再生も進め、浪江町に帰還できるような環境を整えていきます。



- 集約したコミュニティの場所についてはあくまで仮のイメージです。今後、町民の意向を反映させ選定していきます。
-    のそれぞれの場所での暮らしが選択できるよう取り組んでいきます